

## 荊尾遥様インタビュー

### 経歴

広島県出身。津田塾大学大学院国際関係学科修士課程在学中にニューヨーク国連本部（軍縮局）にて国連小型武器行動計画履行検討会議の運営をインターンとして経験。大学院卒業後日本でピースボートに半年間勤務。2007年、外務省の「平和構築分野の人材育成のためのパイロット事業」に第1期生として採用され、南アフリカにある国際民主主義選挙支援研究所（International IDEA）に派遣。在オランダ日本大使館で化学兵器禁止条約担当の専門調査員として4年間勤務後、JPOとして2012年から2014年国連アジア太平洋平和軍縮センターで政務官として勤務。2015年広島県地域政策局平和推進プロジェクトチーム・平和推進アドバイザー。2017年国連軍縮部大量破壊兵器室で政務官として勤務したのち2018年より現職、インド工科大学ハイドラバード校にてJICAの日印共同プロジェクト(M2Smart Project)専門家。

国連フォーラムインタビュー154回

<http://www.unforum.org/unstaff/154.html>

2013年10月31日収録

### Q. 現在のお仕事について教えてください。

2018年4月より、インド工科大学ハイ德拉バード校で、JICAのプロジェクトである低炭素社会を目指した日印共同研究プロジェクト（M2Smart Project）の専門家として働いています。このプロジェクトは、交通円滑化を通じたCO2削減に寄与する都市交通政策の提言を図る5カ年の日印共同研究（地球規模課題対応国際科学技術協力（Science and Technology Research Partnership for Sustainable Development: SATREPS））で、日印の研究者たちが4つのグループ（1. センシング 2. ビッグデータ解析 3. マルチモーダルアプリケーション 4. 二酸化炭素削減）に分かれて共同研究を進めています。具体的には交通センシングおよびビッグデータ解析によるシミュレーションモデルや、ITS技術活用を通じた公共交通の活用等を含む「インド大都市圏におけるマルチモーダル化によるスマートモビリティ構築のための政策ハンドブック」の作成や、研究実施地のアーメダバード市から随時送られてくる情報及びインド工科大学内外に設置したテストベッドの情報を分析して研究をすすめています。日本側から

は民間企業である名古屋電機が研究代表を務め、日本大学、東京工業大学からの研究者も含め、計 34 名、インド工科大学側からは、14 名の研究者及び 20 名のリサーチアシスタントが参加しています。私の役割は現地の研究者とリサーチアシスタントのコーディネートをし、現地の声をプロジェクトに反映させることです。2020 年からは Covid-19 の影響で広島からのリモート勤務です。

**Q. 荊尾さんが仕事をしていく上で大事にしていることは何ですか？**

はじめの 2 年間はハイデラバードにいたので、カウンターパートにもすぐに会える機会があり、信頼醸成をはかり一緒にチームとしてプロジェクトを円滑に行えるように、という思いで調整の仕事をしていました。昨年からリモートになってしまったので難しいところもありますが、やはりみなさんがスムーズに仕事を行えるようサポートする、という思いは変わっていません。

**Q. 国連フォーラムのインタビューを受けられたときは、JP0 2 年目でいらっしやいました。そのときから現職にいたるまでの経緯を教えてください。**

インタビューを受けたころは、ネパールの国連アジア太平洋平和軍縮センターでの JP0 勤務の 2 年目で 3 年目の延長を希望していました。あいにく国連側のコストシェアリングのための資金確保がかなわず、3 年目は無理そうだと、いうことで、JP0 の 2 年目後半はいろいろなポストに応募し、試験や面接を受けていました。国連の仕事は、タイミングが合うか合わないかが鍵になることがとても多いです。当時、UNOPS リビアオフィスの地雷関係のポストの面接を受けたのですが、リビアの情勢が悪くなっている時だったためか、合否の連絡もありませんでした。同時期に、広島県が平和推進アドバイザーを探しているという情報をいただきました。ネパールではアジア・太平洋地域の日本を含めた 43 カ国をカバーしており、出身地広島で開催される軍縮会議を翌年に担当するというタイミング、また当時のオバマ米国大統領を広島に招致しよう、という特命のプロジェクトもあり、この仕事はそれまでの仕事とのつながりもあり地元にも貢献できる、ということでオファーを受けました。2015 年 2 月に着任したのですが、着任してちょうど 1 週間ほどたったところで、UNOPS からリビアのポストの結果を踏まえてコンゴのポスト (Fixed Term Appointment - 正規のポスト) のオファーがありました。さすがに広島の仕事を始めただけだったので、これはタイミングが合わずお断りしました。

その後、国連軍縮部大量破壊兵器室の Temporary Job Opening (短期のポスト) のポストのオファーをもらい、2017年1月からニューヨークに赴任しました。このポストは軍縮部ということでインターン時や JPO 時代からやりとりのあった職場でしたし、公募では半年間ということでしたが一年くらいは延長になるだろう、ということだったのでオファーを受けることにしました。NPT (核兵器の不拡散に関する条約) 第一回運用検討会議担当となりウィーンに出張したり、同時並行で核兵器禁止条約の担当にもなり、3月と7月にあったネゴシエーション会議の準備をしたりしました。短期契約の難しいところは、なかなか延長があるかないかわからず先が読めないということだと思います。私は、その後一年以上任期があるポストを中心にいろいろ応募し、現職の JICA のポストもそのひとつでした。当時ニューヨークの UNDP に JICA からの出向の方がいらしたり、在インド日本大使館に知り合いがいたりで、ご縁を感じるポストでした。

**Q. いまのお仕事は、荊尾さんのいままでの軍縮のキャリアから見ると異なるように見えますが、ご自分のなかでのキャリアプランではどういう位置づけでしょうか？**

確かに軍縮を柱としてキャリアを築いてきましたが、自分のなかでは地域の専門性を深めていきたいと思っていました。また平和構築というのはとても幅広い分野だと思います。軍縮もひとつの柱ですが、環境、SDGs など多岐に渡っており、切り口として環境も興味がある分野でした。このように地域の専門性という観点から、また環境という切り口から平和構築をみたい、そしてマルチではなくバイラテラルの仕事もしてみたい、と思い応募しました。このプロジェクトは低炭素社会をつくるという大きな目標のあるプロジェクトで、五カ年と時間のスパンも長かったのでとても魅力的でした。

**Q. 外務省の平和構築人材育成事業へ応募したきっかけや、いまから振り返って感じる研修の意義について教えてください。**

ちょうどそのころ軍縮や平和構築の専門性をさらにつけたいと思い、博士課程に進むか迷っていました。また、平和構築をキャリアとしていくにはどういう仕事があるのかなど考える始めるなかで、このコースに出会い応募しました。自分にはまだあまり経験がなかったので、すでにいろいろな分野で仕事をされている方、第一線で活躍されている方と一緒に学べたのは良かったと思います。

いまでも同期の一期生とは機会があれば連絡をとりあいます。「期」を超えた交流もあり、日本人だけでなく、ネパールでも研修を受けたという人に会いましたし、オランダにいたときにも研修を受けたというマレーシア人に出会いました。専門性という意味でもネットワークという意味でも意義があったと思います。

**Q. 荊尾さんにとって、平和構築とはどんな意味がありますか？**

平和構築という分野は色々な問題が重なり合っていると思います。もちろん軍縮を柱として関わりたいと思っていますが、実際ポストに応募していくなかでどういう形で貢献できるか考えると、横断的に政策をレビューできる能力が求められていると思います。いまの重層的で複雑な問題を解決するには、多方面からアプローチできる力が必要で、それを身に付けたいと思っています。国連フォーラムのインタビューでも言いましたが、自分の担当したことの成果が見えれば嬉しいし、見いだせればやりがいになる、と思います。

**Q. そういう重層的な複雑な問題にとりくむときに大事になる価値観、考え方はどんなものだと思いますか？**

相手の話をよく聞き、どういう判断をするかを常に考えています。カウンターパートがそれぞれの目的があるなかで、どう調整していくかということはいつも意識しています。以前、現在のプロジェクトで “Conflict resolution meeting” を行いました。この日印共同プロジェクトでどんな「コンフリクト」があるのかと思われるかもしれませんが、「コンフリクト」は国同士の戦争や紛争に限りません。予算絡みとか仕事のやり方を通じても様々な「コンフリクト」が起こります。必要なところをちゃんと聞いて妥協点を見つけ出すということはどんなレベルでも大切で、その意味でいまの仕事にも平和解決の手法が生きています。

**Q. いままで自分のなかで達成感のあった仕事はありますか？**

それぞれの仕事で様々な達成感はありましたが、自分に向いているな、と思ったのは国連アジア太平洋平和軍縮センターの仕事でした。専門性と地域性も合い、クライアントサポート、という観点からも理想的でした。小さい事務所だったので、責任を任されて、プロジェクトの最初から最後までを担当する醍

興味もありましたし、貢献できたという達成感もありました。たとえば、生物兵器禁止条約に関するワークショップをネパールで開催したのですが、あとになって、ネパールが条約を批准したのは、あのときのワークショップのおかげだと言ってもらえたことはとても嬉しかったです。

**Q. これからのキャリアプランについて教えてください。**

即戦力になれるポストを狙って、そこで仕事ができるようにしたいです。地域としては、アジア・太平洋地域、分野としては軍縮・不拡散、平和構築、また国連に限らず関連国際機関も検討しています。そのときのタイミングで、自分がいきたい、やりたい、と思える仕事に出会えたらラッキーだと思います。いままでいろいろな機関・立場で働いてきて、それが役に立っていると思います。

自分のキャパシティを広げて、自分も成長できているな、と感じられることが私にとってのモチベーションにつながっているので、そういう仕事に出会えたらと思います。

**Q. 平和構築分野、開発分野で働くときにあったらいいな、と思うサポートやサービスはありますか？**

たとえば今後につながる、適材適所の空席情報の紹介（人材の専門性や経験などに合ったサポートサービス）があると良いと思います。

**Q. これから平和構築開発分野でキャリアを積んでいこうという方たちへメッセージをお願いします。**

広島平和構築人材育成センター（HPC）での研修を受けているときには、日々様々な分野の講義があり、アクティビティがあります。大変ですが、吸収できるときにたくさんのお話を吸収してください。一緒に受講しているチームメイトとのネットワークは自分にとって人生の財産になりますから、いまの時間を大事にして有効活用されることを願っています。キャリア構築の面でも、Peer support は大事ですので良い仲間作りをしてください。講義でいらした方がコンサルタントを探しているかもしれませんし、ネットワーキングをしておくことは大事です。